

環境経営活動レポート

第78期

(2023年6月～2024年5月)



発行日: 2024年9月2日



Creating Packages & Printing Since 1919

上村紙業株式会社

目 次

経営スローガン		1
会社沿革あゆみ		2
会社概要		3
環境組織図		4
環境経営方針		5
環境経営目標と実績		
達成状況①		6
達成状況②		7
環境推移グラフ		8
Material Balance		9
環境経営計画と実績		
環境負荷削減活動		10
環境保全活動		11
環境経営計画(小倉工場)		12
環境経営計画(到津事業所)		13
関係法令		14
代表者による全体の 評価及び見直し・指示		15

※社内報 ほっと通信UEMURA 令和5年6月1日期初発行記事より・・・

78期経営スローガン「尖る(とがる)」

— 先鋭的な取り組みにチャレンジして、ニッチに食い込む —

前期77期は、「RERUN(再実行)」を経営スローガンに揚げて、世の中に必要とされる紙器メーカーとして、やらなければならない事、現時点ではできていない事をしっかり再実行していく取り組みを行いました。

今期78期では、経営スローガン「尖る(とがる)」を掲げて、狭い範囲の方々のビジネスに刺さるような尖った取り組みを行い、ネットに発信していきます。 ～ (中略) ～

今期78期は、会社永続のための踏ん張りどころです。経営の抜本的な改革を図ると同時に、尖ったビジネスアイデアでネット発信力を高め、受注を拡大していきたいと思います。

どうぞ皆さん、一緒に頑張りましょう。



代表取締役社長
上村 篤弘

78期、EA21:環境経営目標について

・・・チャンス

(外部) SDGs取り組みの活性化

(内部) 協業によるフィルム代替表面加工

・・・課題

(外部) 新型コロナウイルス感染防止

(内部) 設備・車両の老朽化

・・・削減目標 と 取り組み

◆廃棄物排出量、二酸化炭素排出量の削減、上水使用量の削減 …… 各1%削減

◆化学物質の使用量削減

◇FSC認証(CoC認証)取得



会社沿革(あゆみ)

大正8年 1919年	博多に於て紙箱の製造を開始[創業]した
大正9年 1920年	八幡市に移転、官営八幡製鐵所との取引開始
昭和22年 1947年	八幡製鐵所より活版印刷機の払下げを受け、八幡西区大字藤田1460番地の4に於て借受工場に設置し「合名会社上村紙製品工場」を設立「会社としての創立」復業成る
昭和24年 1949年	「合名会社上村紙器印刷工業所」と改称、本店を小倉北区上到津3丁目47番地に移転
昭和27年 1952年	片面段ボール機新設により段ボール箱の製造に着手し紙器工場を増築、同年9月株式会社洞海洋紙店を吸収合併し現称号「上村紙業株式会社」に改称
昭和35年 1960年	事務所(鉄筋コンクリート三階建延476m ²)、印刷製本、製箱トムソン工場(鉄骨二階建延2,114m ²)を新築、印刷機他諸設備を更新の上、移設拡充強化を行う
平成5年 1993年	企画デザイン室を発足させMacを導入、DTPを行う
平成7年 1995年	パッケージ部門の企画から設計一貫を図るべくCAD並びにサンプルカッター導入
平成10年 1998年	クリーンルームを新設 サンエンジニアリング社製ストレートグルアーSR1000M4型を導入
平成17年 2005年	エコアクション21 認証取得 (2005年3月4日)
平成18年 2006年	パッケージ美粧箱の需要に応えるため、 ハイデルベルグ社 XL-105 菊全5色・水性ニスコーター付印刷機導入、 三和製作所製 全自動平盤打抜機 TRP-1060SE II 増設
平成20年 2008年	ISO9001:2000年版認証取得認証機関DNV
平成26年 2014年	専門性と工場の効率化をはかるため、大手町工場と行橋工場を荏田事業所へ移転統合 荏田事業所を上村紙工株式会社として分社化
平成29年 2017年	小倉北区高浜に小倉工場開設し、パッケージ製造ラインを到津事業所より移転、 本社・到津事業所を現在地へ移動 ISO9001:2015年版に移行、小倉工場認証範囲拡大 小倉工場 エコアクション21 認証範囲拡大 製函作業の効率化を図る為、サンエンジニアリング社製 ストレートグルアーBL-650を導入
令和元年 2019年	上村紙業創立100周年記念
令和4年 2022年	ISO9001:認証返上、2022年7月2日をもってISO認証解約 北九州SDGs登録制度、2022年8月1日 登録
令和5年 2023年	1月、エコアクション21中間審査認証合格(有効期限2025年3月3日)

「エコアクション21」登録状況

(1) エコアクション21、初回認証登録	上村紙業株式会社、到津事業所 (認証・登録番号:0000133)	2005年 3月
(2) 小倉工場移転	紙器製造主要工程を小倉北区高浜に移転	2017年 1月
(3) 到津事業所移転	道路を隔てたフォーム工場側に本社機能移転	2017年 4月
(4) エコアクション21認証更新	ガイドライン2017年版	2021年 3月
更新審査認証合格(有効期限:2025年3月3日)		2023年 3月

上村紙業株式会社の概要

(1) 事業者名および代表者名

上村紙業株式会社

代表取締役社長 上村篤弘

(2) 所在する事業所

* 本社・印刷パッケージ到津事業所

* 小倉工場

(3) 所在地

本社・印刷パッケージ到津事業所

〒803-0845
福岡県北九州市小倉北区上到津3丁目5-10

小倉工場

〒802-0021
福岡県北九州市小倉北区高浜1丁目6-46

(4) 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者

畑島 久範

事務局 小倉工場

担当者

畑島 久範

電話:093-967-0100 FAX:093-967-0550

MAIL: h-hatashima@uemura-shigyo.co.jp

(5) 事業内容

一般印刷及び紙器の製造販売 段ボール箱及び包材の販売

(6) 事業規模

活動規模を示す項目		年次	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
		単位	74期	75期	76期	77期	78期
主要製品生産量		t	323	294	226	240	181
従業員		人	40	40	38	36	34
床面積	到津事業所	m ²	2,193	2,193	2,193	2,193	2,193
	小倉工場	m ²	2,170	2,170	2,170	2,170	2,170
	事業所合計	m ²	4,363	4,363	4,363	4,363	4,363

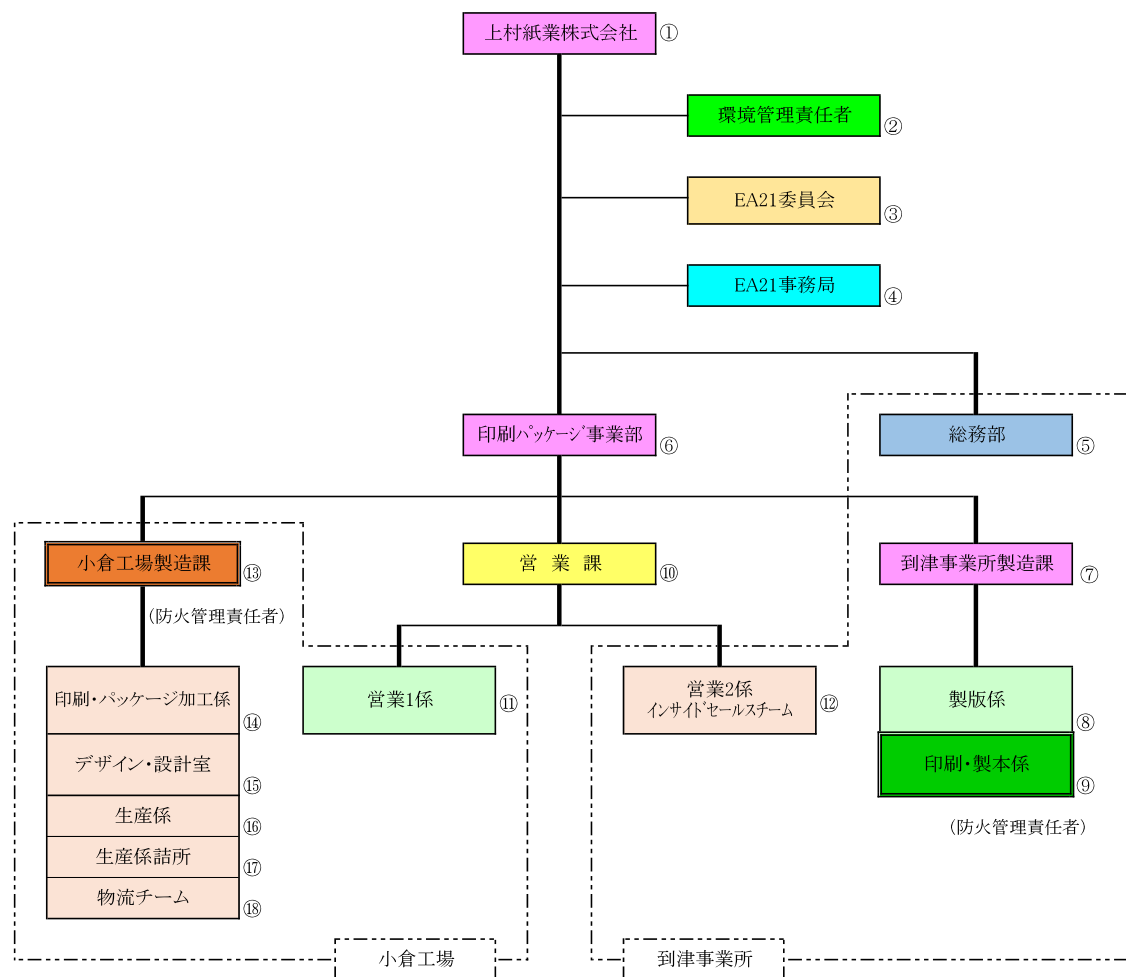
(7) 認証登録の対象範囲

上村紙業株式会社、全組織及び全活動とする。

組織図(P-2)に示す

上村紙業株式会社 78期環境組織図(エコアクション21推進組織図)

＜2023.6.1 改訂版＞



役割分担表(本社、印刷パッケージ事業部)

2023.06.01作成

氏 名	所 属	役 割・権 限・責 任
① 上村紙業株式会社	代表取締役社長	全体統括、環境経営方針/環境経営目標策定、経営資源の準備・マネジメントレビュー開催、EMS取組状況の確認・評価・見直し
② 環境管理責任者	環境管理責任者 (EA21委員会 EA21事務局)	上村紙業のEMSを構築・運用、環境経営計画策定
③ EA21委員会	EA21委員会	外部からの苦情・要望対応、環境経営レポート作成、MRインプット
④ EA21事務局	印刷パッケージ事業部 生産係 EA21事務局	EA21委員会主宰 環境コミュニケーションの実施 EA21文書と記録の作成・維持・管理をおこなう

事業部

⑤ 総務部	総務部	本社総務部の活動実施責任者
⑥ 印刷パッケージ事業部	印刷パッケージ事業部	印刷パッケージ事業部の活動実施責任者 緊急事態への準備及び対応

到津事業所 製造課

⑦ 到津事業所製造課	到津事業所 製造課	到津事業所の活動実施責任者 緊急事態への準備及び対応
⑧ 製版係	製版係	製版係活動実施責任者
⑨ 印刷・製本係	印刷・製本係	印刷・製本係活動実施責任者兼到津事業所防火管理責任者 緊急事態への準備及び対応

営業課

⑩ 営業課	営業課・営業1係、2係統括	営業課の活動実施責任者
⑪ 営業1係	営業1係	営業1係活動実施責任者
⑫ 営業2係	営業2係・インサイトセールスチーム	営業2係活動実施責任者

小倉工場 製造課

⑬ 小倉工場 製造課	小倉工場 製造課	小倉工場の活動実施責任者兼防火管理責任者 緊急事態への準備及び対応
⑭ 印刷・パッケージ加工係	板紙パッケージ加工係	板紙パッケージ加工係活動実施責任者
⑮ オフセット印刷係	オフセット印刷係	オフセット印刷係活動実施責任者
⑯ デザイン・設計室	デザイン・設計室	デザイン・設計室活動実施責任者
⑰ 生産係	生産係	生産係活動実施責任者
⑱ 生産係詰所	生産係詰所	生産係詰所活動実施責任者
⑲ 物流チーム	物流チーム	物流係活動実施責任者

環境経営方針

【基本理念】

私たち上村紙業は、経営理念「なるほど提供カンパニー」に掲げている通り、地球環境との共生・調和、そして地球環境保全への取り組みを重要課題として認識し、自ら責任を持ち、全社一丸となって環境に配慮した事業活動に取り組み、環境負荷を継続的に削減していきます。

【基本方針】

私たちは、印刷・紙器・段ボールの設計開発及び製造に関わるあらゆる活動において、地球環境に影響を与える課題を明確に捉え、継続的な環境負荷の低減に取り組む上でのチャンスを活かし、以下の具体的な環境活動を実施します。

1. 環境関連の法律、規制、協定などの遵守及び社内標準の整備を行い、環境保全に努めます。
2. 地球環境の保全を推進するために、その責任を明確にした環境管理体制の組織強化を図ります。
3. 上村紙業が行う事業活動において、以下の環境経営目標を策定する項目として掲げ活動を実施してまいります。
 - ① 事業活動で発生する廃棄物の量の削減とリサイクルに取り組みます。
 - ② 事業活動で使用する電気・燃料を減らし、二酸化炭素排出量の削減に繋がります。
 - ③ 事業活動で使用する上水の削減に取り組みます。
 - ④ 事業活動で使用する化学物質の量を削減します。
 - ⑤ 事業活動で生産・提供する製品の環境負荷状況を把握し、リサイクル可能な製品設計、省エネ型の商品の開発に努めます。
4. 全ての社員に対して、環境に関する教育・訓練を行い、環境保全の意識及び能力向上を図ります。
5. この環境経営方針を社内外に公表します。

2018年6月1日改訂
上村紙業株式会社
代表取締役社長 上村篤弘

環境経営目標と実績

78期目標及び、達成状況①

1. 78期(2023年6月～2024年5月)目標と実績

表－1 前期第77期の実績と当期78期の設定目標ならびに実績・評価

項 目	内 容 負荷量	基準値 (77期の実績値)	78期		判定 基準値からの削減率 ○:達成 ×:未達成
			目 標 (77期1%削減)	実績	
二酸化炭素排出量	総量(kg-CO ₂)	137,181.3	135,809.5	133,592.9	○:2.6% 削減
電力	消費電力(kWh)	235,648.0	233,291.5	231,619.0	○:1.7% 削減
ガソリン	消費量(ℓ)	6,885.7	6,816.8	5,795.7	○:15.8% 削減
軽油	消費量(ℓ)	3,206.6	3,174.5	3,544.2	×:10.5% 消費増
廃棄物総排出量	総量(kg) (産業廃棄物+事業系一般)	7,378.0	7,304.2	6,669.0	○:6.9% 削減
水資源投入量	総量(m ³)	441.2	436.8	483.4	×:9.6% 増量
化学物質	n-ヘキサン、他 (kg)	3.57	3.53	3.17	○:12.0%使用量削減
環境対応製品	環境負荷低減 (設計・開発提案件数)	16	16	16	○:提出件数達成
社会貢献活動	板櫃川清掃(1/3か月:年4回)	4	4	4	○:達成…±0
	会社周辺清掃活動(毎月:年12回)	12	12	12	○:達成…±0

★CO₂排出係数=0.479kg-CO₂/kWh : 2020年度 九州電力による実際の排出量(基礎排出量)から算出された調整後排出係数の値
通期トータルの実績をみると、二酸化炭素の排出量では77期実績値の1%削減(目標値)を上回り、2.6%の削減となった。
ただ、軽油消費量、水資源投入量の2項目で目標値を上回ってしまった。

2. 中・長期目標

二酸化炭素排出量、廃棄物、上水使用量について、77期の実績値1%削減を目標として定め、中・長期(3年間)の具体的な数値目標を示す。

表－2 3ヶ年(78期、79期、80期)の目標値

項 目	内 容 負荷量	基準値 78期の実績値	79期 2024.6～2025.5	80期 2025.6～2026.6	81期 2026.6～2027.6
			目標値 -1%	目標値 -1%	目標値 -1%
二酸化炭素排出量	総量(kg-CO ₂)	133,592.9	132,257.0	130,934.4	129,625.1
電力	消費電力(kWh)	231,619.0	229,302.8	227,009.8	224,739.7
ガソリン	消費量(ℓ)	5,795.7	5,737.7	5,680.4	5,623.6
軽油	消費量(ℓ)	3,544.2	3,508.7	3,473.6	3,438.9
廃棄物総排出量	総量(kg)	6,669.0	6,602.3	6,536.3	6,470.9
水資源投入量	総量(m ³)	483.4	478.6	473.8	469.0
化学物質	1,2,4-トリメチルベンゼン他7種(kg)	3.17	3.14	3.11	3.08
環境対応製品	環境負荷低減 (設計・開発提案件数)	16	16	16	16
社会貢献活動	板櫃川清掃(1/3か月:年4回)	4	4	4	4
	会社周辺清掃活動(毎月:年12回)	12	12	12	12

★排出係数=0.479kg-CO₂/kWh:2020年九州電力調整後排出係数

3. 78期の達成状況－1

① ≪二酸化炭素の排出量(消費電力、ガソリン・軽油消費量)削減について≫

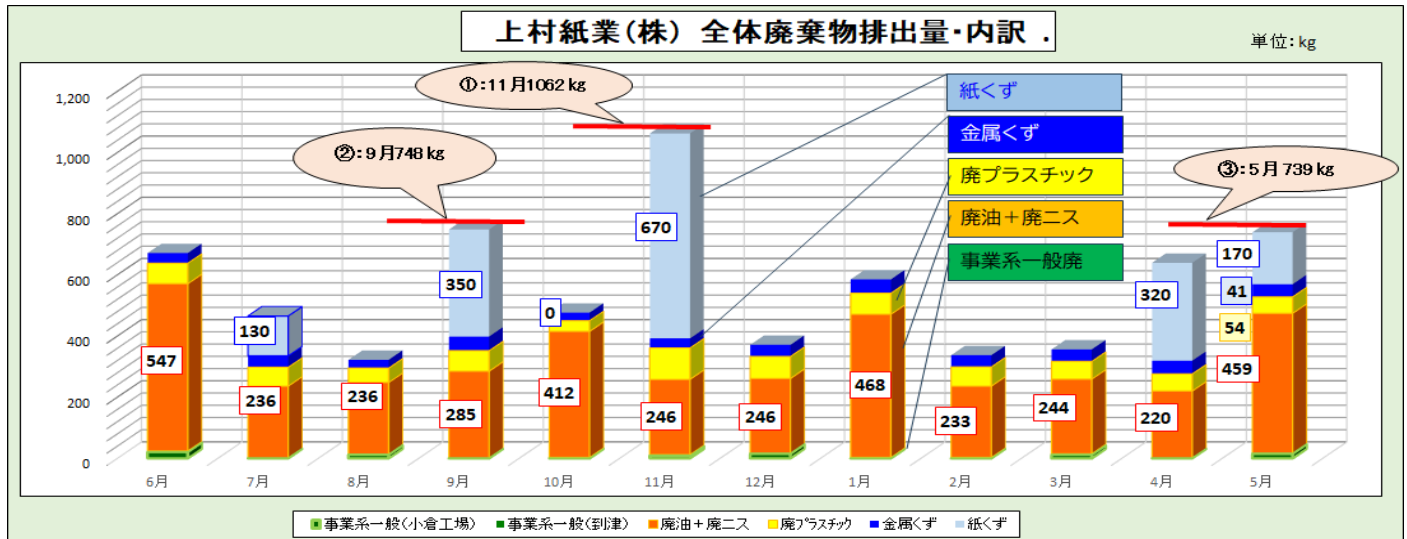
全体として消費電力:▲4,029kWh、二酸化炭素排出量:▲3588.4kg-CO₂の削減結果となったが、事業所別に比較すると、小倉工場では消費電力:＋7,417kWh、二酸化炭素排出量:＋4,862kg-CO₂と77期の実績を大きく上回っており、到津事業所のガソリン使用量:▲1,311.8ℓ、消費電力:▲11,446.0kWh、二酸化炭素排出量:▲11,573.9kg-CO₂に負うところが大きかったとはいえ到津事業所の受注案件の減少に伴う生産・稼働の減少が要因となっている事から手放しでは喜べない状況と言える。

	77期	78期	差異	77期小倉	78期小倉	差異	77期到津	78期到津	差異
消費電力	235,648.0	231,619.0	-4,029.0	158,166.0	165,583.0	7,417.0	77,482.0	66,036.0	-11,446.0
CO ₂ 排出量	112,875.4	110,945.5	-1,929.9	75,761.5	79,314.3	3,552.8	37,113.9	31,631.2	-5,482.6
ガソリン	6,885.7	5,795.7	-1,090.0	4,539.8	4,761.7	221.9	2,345.8	1,034.0	-1,311.8
CO ₂ 排出量	15,986.1	13,455.6	-2,530.5	10,539.9	11,055.0	515.1	5,446.2	2,400.6	-3,045.6
軽油	3,206.6	3,544.2	337.6	3,206.6	3,544.2	337.6	0.0	0.0	0.0
CO ₂ 排出量	8,288.9	9,161.5	872.6	8,288.9	9,161.5	872.6	0.0	0.0	0.0
CO ₂ 排出量	137,181.3	133,592.9	-3,588.4	94,590.3	99,530.8	4,940.5	42,591.0	34,062.1	-8,528.9

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	Total
小倉工場	消費電力77期実績	13,901.0	17,647.0	17,727.0	13,536.0	11,332.0	10,687.0	14,919.0	14,432.0	12,343.0	10,999.0	11,154.0	158,166.0
	CO ₂ 排出量77期実績	8,375.3	10,317.4	10,136.4	8,086.4	7,071.5	6,606.2	8,776.7	8,395.3	7,172.1	7,094.2	6,595.4	94,591.3
	消費電力78期実績	16,042.0	17,414.0	19,647.0	16,691.0	12,897.0	11,077.0	14,289.0	13,192.0	11,929.0	12,181.0	9,589.0	165,583.0
	CO ₂ 排出量78期実績	9,649.3	10,227.6	11,205.0	9,760.0	7,795.9	6,696.2	8,846.9	7,515.1	7,118.7	7,573.9	6,072.7	99,453.2
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	Total
到津	消費電力77期実績	5,157.0	6,483.0	7,255.0	5,106.0	4,478.0	4,681.0	8,219.0	9,227.0	9,947.0	7,348.0	4,761.0	77,482.0
	CO ₂ 排出量77期実績	3,057.1	3,600.8	3,869.8	2,855.2	2,616.9	2,817.5	4,474.7	4,780.5	5,164.3	3,996.9	2,671.1	42,590.0
	消費電力78期実績	5,313.0	5,881.0	6,657.0	5,641.0	4,336.0	5,236.0	5,998.0	7,146.0	6,352.0	5,179.0	3,922.0	66,036.0
	CO ₂ 排出量78期実績	2,788.8	2,996.2	3,343.2	2,928.4	2,144.2	2,803.1	3,113.6	3,548.8	3,287.5	2,672.0	2,128.5	34,061.7

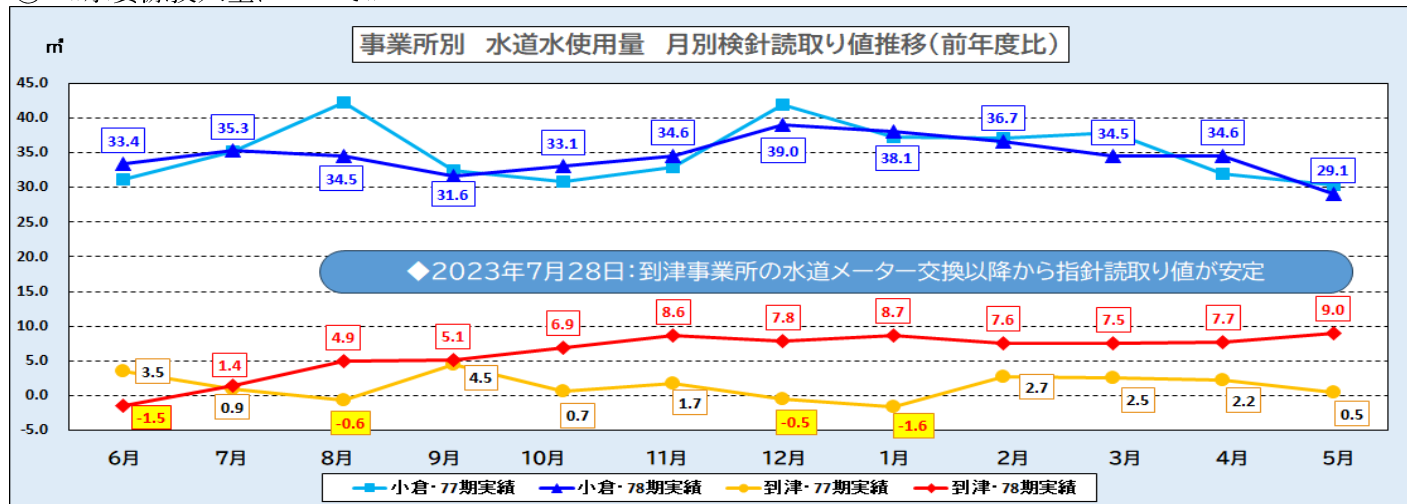
3. 78期の達成状況－1

② ≪産業廃棄物の排出量削減について≫



これまでは廃棄物回収業者(リサイクル回収兼任)については1社に任せてきたため、約3ヶ月に1回程度、年間で3回～4回の受注案件で回収不可紙に分類されていた、E段・石華紙に関して、78期末よりリサイクル専門の回収業者に変更することにより、段ボール古紙の分類での回収が可能となった。また、落丁クズに関しても表面加工の有無等で細分化することで、雑古紙、難処理古紙として分別回収が可能となり有価物としてのリサイクル回収が可能となり、年に数回発生している紙くず回収増加による産廃増の突出が、軽減されるだけでなく有価物としてのリサイクル回収増が見込めるようになった。(79期より本格スタート)

③ ≪水資源投入量について≫



到津事業所の水道メーター交換(7/28、有効期限)により、毎月の検針読取り値が安定化。前年許容内で変動する中での検針値が少なめに推移していたと思われる。77期年間使用量: 441.2m³がベースだったが適正化されたことにより78期年間使用量: 483.4m³と全体で42.2m³増と目標値未達の結果となった。

④ ≪化学物質について≫

化学物質(含有溶剤 5種)購入量集計							
溶剤名	ペストキアールUVD-ラー洗浄液			プレートリザーバー	フレンドオイル	DRNDドライヤー	3Mスプレー糊
単位(g)	1,2,4-トリメチルベンゼン	1,3,5-トリメチルベンゼン	クメン	ナフタレン	モリブデン及びその化合物	コバルト及びその化合物	n-ヘキサン
77期	2,499.20	683.87	332.28	25.20	10.00	0.00	22.88
78期	2,217.20	606.79	294.84	23.40	0.00	0.00	24.84
差異	-282.00	-77.08	-37.44	-1.80	-10.00	0.00	1.96

含有溶剤 5種、該当化学物質 7種の内、5種の化学物質使用量を削減することができた。

⑤ ≪環境対応製品開発について≫

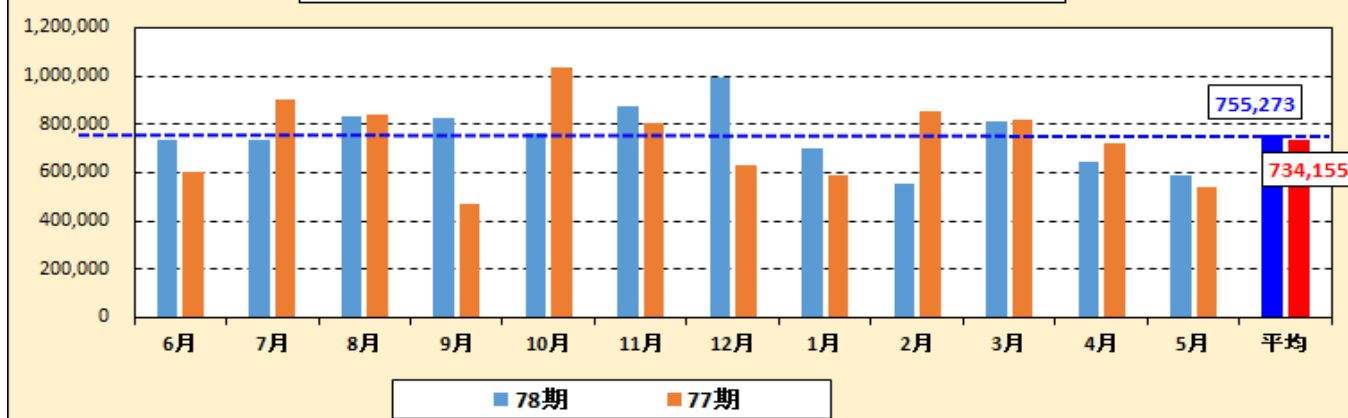
企画デザイン室・設計開発室では、引き続き顧客提案製品において、環境負荷低減に資する提案提出目標を年間16件と定め取組んだ結果、設計開発部門: 11件、デザイン部門: 5件、合計: 16件で目標達成した。

⑤ ≪社会貢献について≫

到津事業所周りの側溝のゴミ、雑草の除去及び板櫃川河川敷のゴミ拾いを計画通り実行できた。また、小倉工場でも敷地内のゴミ拾いや雑草の除去等に関して、計画通り実施することができた。

*小倉工場主要設備作業枚数と生産重量・売上高

77期Vs78期 小倉工場主要設備作業枚数推移

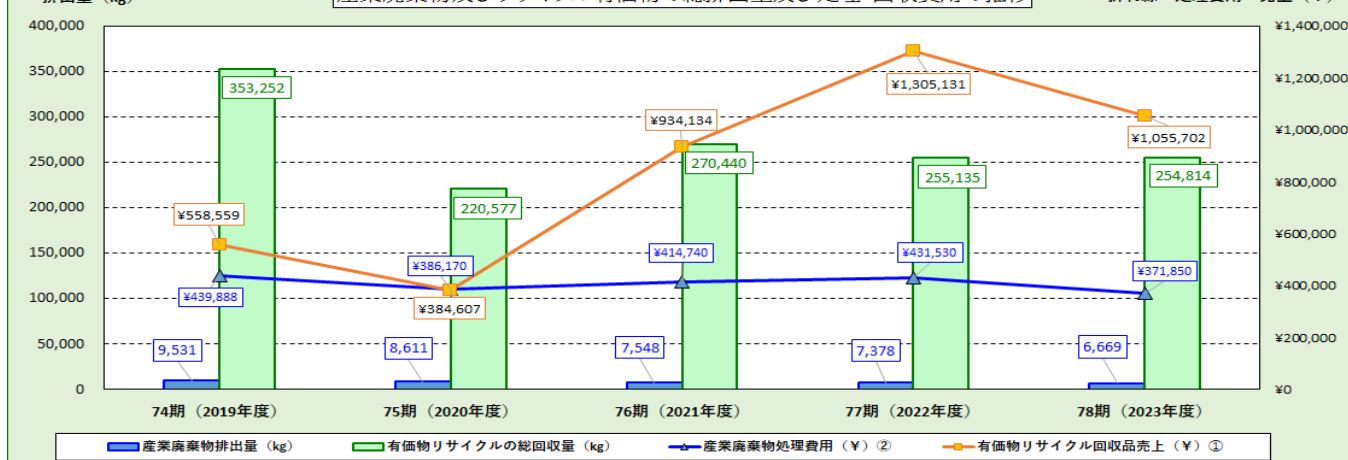


従業員数が前年比で2名減少する中、人員補充もままならない状況ではあったが、小倉工場の生産活動で見ると、主要設備（印刷・トムソン・グラ）の作業枚数はトータルで274,530枚の伸びを示している。月平均にして21,118枚作業枚数は増加していた。

売り上げについても、2,900万円増と若干ではあるが、前年より伸ばすことができた。ただ、生産量（生産重量）では181.39tと約59tのマイナスとなった。要因としては、面付け数や製品効率を増やした割付等の効果も考えられるが、それ以上に他社からの加工請負の増加に加え、逆に他社への加工外注依頼品（装置不具合・人員不足）によるところが大きなウェイトを占めているものと思われる。（生産量：原紙入庫～損紙排出の差異から見た生産重量から算出している経緯より・・・）

産業廃棄物及びリサイクル有価物の総排出量及び処理・回収費用の推移

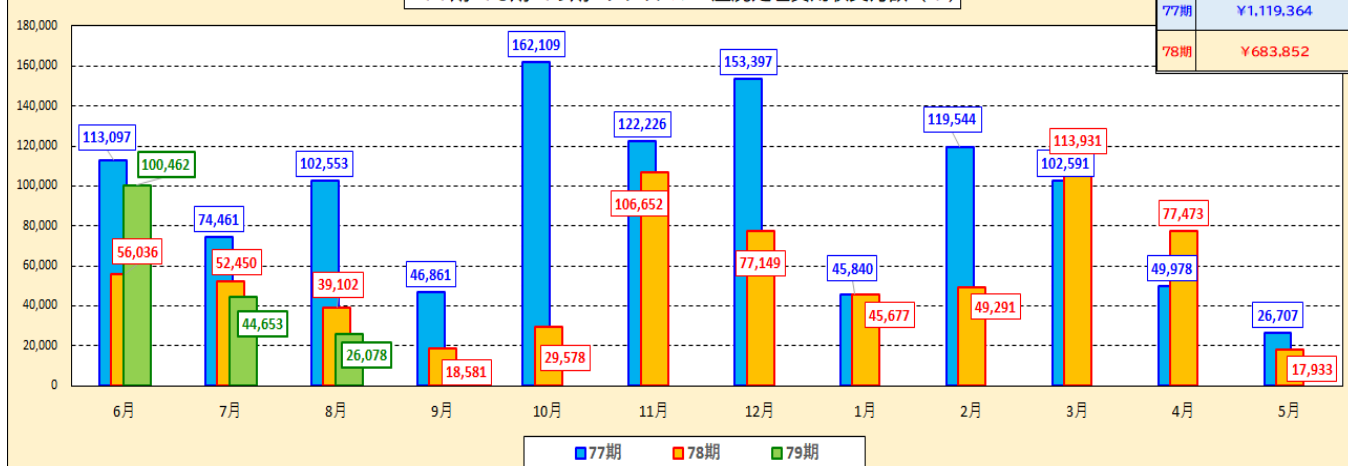
折れ線：処理費用・売上（¥）



・産廃総排出量、有価物総回収量及び収支の年度別推移を見ると、77期(2022年度)については、リサイクル古紙のなかでも中級品として最も大量に発生するクラスの回収費が1kg当たり(6.0円)と最高値となり、¥1,305,131、産廃処理費用¥431,530を差し引いても ¥873,601の収入を得ていたが、78期は1kg当たり(3.0円)と半額に変動し、ほぼ同量のリサイクル回収量を得たが、収支で ¥683,852 にとどまった。

・79期からは、リサイクル古紙回収業者を専門業者へ変更し、古紙の更なる分別細分化により回収単価の上昇と安定化を図り、年間のリサイクル回収による収入として100万円前後を見込んで分別回収活動の強化を図る。

77期・78期・79期 リサイクル⇄産廃処理費用収支月額（¥）

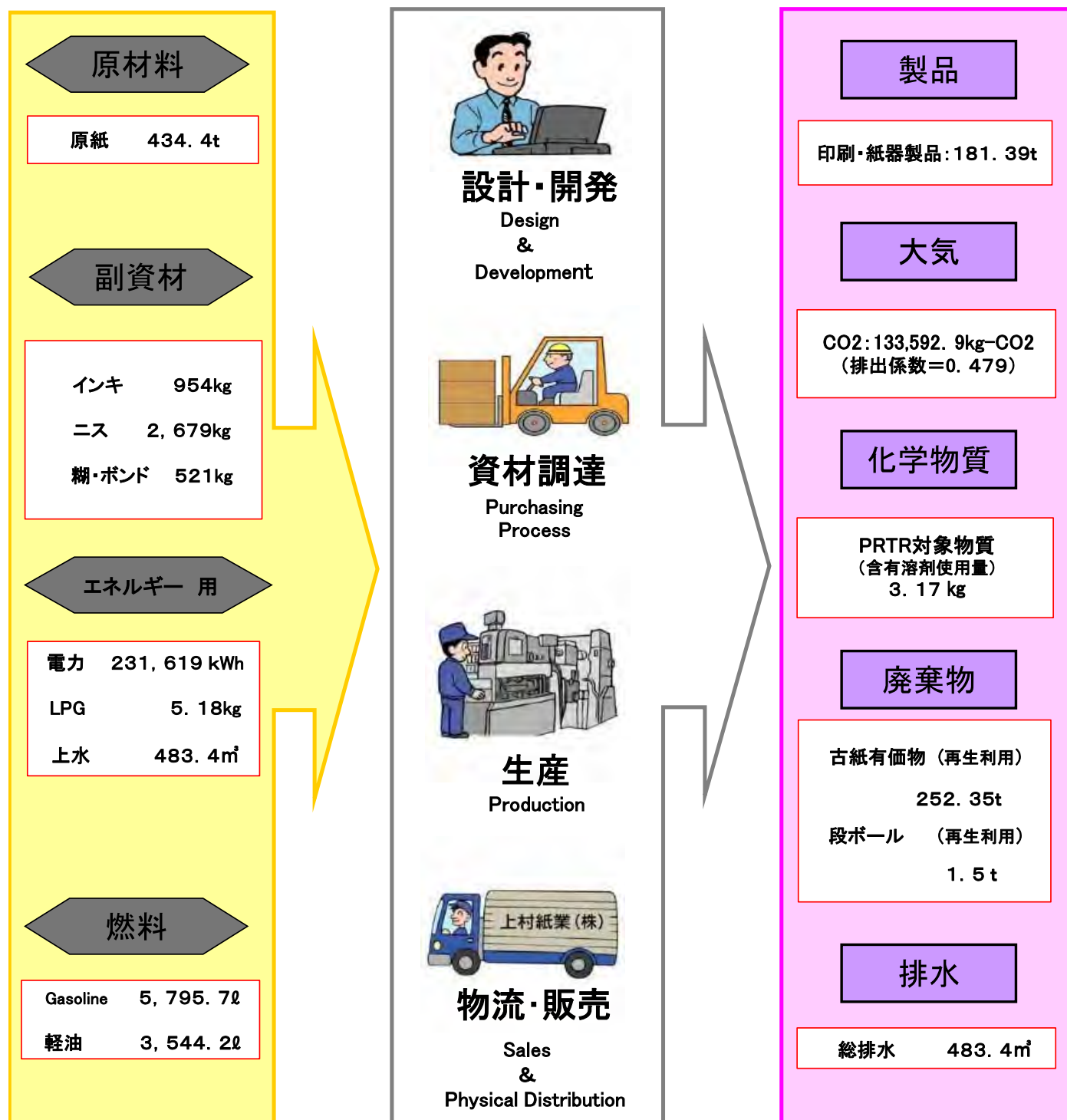


Material Balance (2023年度)

Input

Process

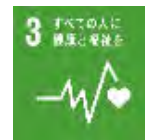
Output



環境経営レポート

2023年度版
上村紙業株式会社

環境経営活動計画と実績、評価 環境負荷削減活動



78期(2023年6月1日～2024年5月31日)以下の取組をしました。

事 項	活動計画		活動項目	実 績	評価
二酸化炭素 排出量の削減	1	電気使用量 削減 (76期実績値より 1%削減)	空調の設定温度を決める	冬季19℃ 夏季28℃(室温)に設定	○
			空調装置のフィルター清掃を定期的(3ヶ月毎)に実施	確実に実施された	
			デマンドコントロールによる電力消費上限管理	警報発令時のアクション計画、実施	
			照明器具の点検、節電	都度目視確認、昼休み消灯実施	
			使用量グラフ掲示	使用量グラフ掲示 見エル化	
	2	ガソリン使用量 削減 (77期実績値より 1%削減)	急発進、急ブレーキ禁止	移動通信システムで管理、発生都度報告	△
			高速道速度超過防止(100km/h以下)監視	移動通信システムで管理、発生都度報告	
			低排出ガス車に更新	ガソリン車→燃料電池自動車に更新	
	3	軽油使用量 削減 (77期実績値より 1%削減)	トラック保守点検	日常点検、定期点検実施	○
			配送車両減車	配送ルート見直し、重複配送減	
			効率の良い配送計画	職場長計画作製	
廃棄物排出量の 削減	4	一般廃棄物 (77期実績値より1%削減)	使用済み封筒の再利用	社内回覧用として再利用	○
			使用済みコピー用紙の裏紙の利用	片面損紙集荷用トレイ製作、裏面メモ紙活用	
	5	産業廃棄物 (77期実績値より1%削減)	ヤレ紙分別により有価物と産廃紙くずを明確に識別	分別は確実に実施された	○
			再生不可原紙から再生可能原紙への変更促進	顧客に提案	
			排出量グラフ掲示	排出量グラフ掲示 見エル化	
水使用の削減	6	上水使用量 削減 (77期実績値より 1%削減)	水道使用量の自主検針	1ヶ月ごとに水道メーターの自主検針実施	○
			水道配管の漏水検査	半期ごとに点検(点検頻度増やした)	
			使用量グラフ掲示	使用量グラフ掲示 見エル化	
化学物質の削減	7	化学物質 (目標:77期実績値同等以下)	PRTR法該当化学物質の把握	使用溶剤のSDS入手、関係者に配付	○
			PRTR法、有機則、消防法該当物質含有溶剤把握		
			1,2,4-トリメチルベンゼン他7種の使用量集計	使用職場(オフセット、フォーム、技術開発室)で集計、管理	
環境負荷低減 製品の開発	8	16件提案 (デザイン=4件、設計=12件)	技術開発室 Reduce Reuse Recycleに資する開発	技術開発:12件提案	○
			企画デザイン室 Reduce Reuse Recycleに資する提案	企画デザイン室:4件提案	

環境経営活動計画と実績、評価

環境保全活動

計画項目	活動内容と結果	評価
1. 組織体制の定着化	1 環境組織図改定。(期初:2023年6月1日)。	○
	2 環境経営レポート(2024年8月、78期版)を作成。	○
	3 全社員に対して環境経営方針が記載された社員カードを配布。(2023年6月1日)	○
	4 エコアクション21委員会定期開催(四半期ごと 7、10、1、4月)した。	○
2. 消防・避難訓練 到津事業所、小倉工場 1回/年	到津事業所 日時:2023年11月8日(水) 9:00~12:00 ※消防設備点検のみ実施。 消火訓練、避難訓練は机上想定のみ。	○
	小倉工場 日時:2023年11月7日(火) 13:10~13:40 場所:マツモト高浜工場との合同避難訓練実施(火元:マツモト工場内想	○
3. 緊急対応訓練 (車両OIL漏れ想定)	到津事業所 人員減により開催見送り	
3. 緊急対応訓練 (廃液倉庫油漏れ想定)	小倉工場 日時: 78期 2023年9月28日(木) 13:15~14:00 場所:廃油廃液置き場、廃油漏洩事故を想定して実施後未実施。	○
4. 改善提案活動及び5S活動における 省エネ、環境対策	職場単位での潜在する環境リスクの洗い出し。省エネの推進。	○
	製造現場で職場単位の節電対策計画、実行。	○
5. 安全衛生委員会と連携した環境活動 ①開催日:1回/月 安全委員会会議 ②安全衛生パトロール 1回/半期 ③有機溶剤等環境管理物質の管理 ④5S巡回指摘事項の改善・有害虫対策 ⑤潜在する環境リスクの洗い出し ⑥社会貢献、ボランティア活動への参加 ⑦会社回りの清掃活動		
	1 安全関連の実施事項、社内決定事項等の周知徹底	○
	2 安全衛生パトロール指摘事項改善、	○
	3 PRTR法該当物質含有溶剤 代替品の調査、変更	○
	4 小倉工場、イカリ消毒による有害虫駆除と5S巡回、指摘事項の改善	○
	5 危険物置場および危険物の管理状況チェック	○
	6 隣接「板櫃川」「到津の森周辺」の清掃 3ヶ月ごと実施した	○
	7 到津事業所、会社周りの側溝の清掃 各職場持ち回りで毎月励行	○
	7 小倉工場敷地内清掃活動をマツモト様と繁忙期を避けて交代で実施	○
5. 生産活動、品質管理活動における環境 ・エコ運動の実現 ①不良の削減 ②紙くずの分類処分 ③ISO9001認証経験を活かした活動	ヤレ(損紙)の削減のため、投入予備紙の削減を徹底した	○
	資源投入量を削減するために、不良を撲滅する活動を強化した	○
	生産活動で排出される損紙(紙くず)を、有価物と産業廃棄物に分別	○
	認証制度そのものは解約したが、品質管理のノウハウは一部継続。(点検・検査票	○
6. 営業活動における環境・エコ運動 ①エコ商品の開発 ②エコ商品のWeb上でのPR ③再生可能原紙へ切り替え促進 ④環境負荷低減製品の提案	LCコートホログラムのパッケージサンプル作成 …	○
	アイセールスによるweb上でのPR~販促活動を2022年4月22日キックオフ	○
	環境負荷低減製品の設計開発12件、デザイン4件、合計16件提出	○

今期環境経営計画と実績
今期(78期 2023年6月～2024年5月)の活動計画
この1年、以下の項目に取り組みます

上村紙業(株)小倉工場

2023.06.01作成

目標項目			活動目標		活動項目		責任者	スケジュール														
								6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月			
Ⅰ	二酸化炭素排出量	（77期実績） 1%削減	1	購入電力削減	1	エアコンの室温温度管理（ラベル再点検、配付）	E A 2 1 事務局	■							■							
					2	エアコンフィルターの定期清掃	該当職場長	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
					3	エアコン室外機の洗浄・簡易点検（改正フロン法対象機）	E A 2 1 事務局	■			■			■			■					
					4	照明器具の管理、点検、節電	該当職場長	■			■			■			■					
					5	効率的な水性ニス印刷計画	該当職場長	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
					6	リーチリフトの効率的な充電	該当職場長	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
			2	ガソリン使用量削減	1	テレマティクスによる管理 急発進・急ブレーキ	総務部	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
					2	急発進・急ブレーキ発生防止、安全指導	営業課	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
					3	テレマティクスによる管理 長時間アイドリング	総務部	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
					4	長時間アイドリング発生防止、指導	営業課	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
					3	軽油使用量削減	1	フォークリフトの保守、点検	資材倉庫担当者	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
Ⅱ	廃棄物排出量	1%削減（77期実績）	1	廃棄物（紙くず）排出量削減	1	歩留まり改善	該当職場長	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
					2	良品率改善	該当職場長	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
					3	予備紙の割り当て基準の見直しと実施	生産係担当者	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
					4	廃棄物置場の管理	E A 2 1 事務局	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
			2	リサイクルの徹底	1	紙の分別 雑古紙、雑誌、模造紙、段ボールなど	該当職場長	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		
					2	業者との契約見直しまたは更新 契約書（外部文書）管理	担当部門長	■														
			3	一般廃棄物の削減	1	両面コピー実施	営業課・管理課	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
			Ⅲ	使用水道	1%削減（77期実績）	1	工場使用量の削減	1	節水ラベル再点検、配付、節水喚起	該当職場長	■						■					
2	効率的な水性ニス印刷計画	該当職場長						■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
2	事務所使用量の削減	1				節水ラベル再点検、配付、節水喚起	該当職場長	■						■								
		3				漏水、施設不全の点検	1	水道使用量のチェック（検針）	E A 2 1 事務局	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
Ⅳ	化学物質使用量	削減				1	化学物質の管理	1	P R T R法該当化学物質 把握、削減、取扱、保管	該当職場長	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
			2	有機溶剤含有 把握、削減、取扱、保管	該当職場長			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
			3	S D S、I C Pデータの完全収集、文書管理	品質保証			■						■								
Ⅴ	貢献社会	着手	1	地域環境活動	1	工場敷地内の清掃 1ヶ月ごと	安全衛生推進委員会	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■				
			2	環境保全活動	1	漏洩拡散防止対策品の設置・点検・訓練実施 （社用車への展開）	EA21事務局・該当職場長・営業課	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■				
Ⅵ	設計・開発	推進	1	「3R」製品の開発・販売	1	3 Rを意図した製品	営業・開発・デザイン	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■				
			2	紙の素材の再認識活動	1	紙以外の素材を紙に置き換える試み	営業・開発・デザイン	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■				
Ⅶ	その他	着手	1	掲示物の最新化	1	環境目標グラフ、環境関連資料作成、配付	E A 2 1 事務局	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
					2	掲示物の最適化 陳腐化した掲示物排除、最新版掲示	該当職場長	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
			2	EA21活動への意識の強化	1	E A 2 1 委員会の開催と内容の充実化	E A 2 1 委員会		■			■		■			■					
					1	安全パトロールの実施	安全衛生推進委員会	■					■									
			3	環境リスクの洗いだし	2	安全パトロール指摘箇所改善	該当職場長	■						■								

□:計画 ■:実施

今期環境経営計画と実績
今期(78期 2023年6月～2024年5月)の活動計画
この1年、以下の項目に取り組みます

上村紙業(株) 到津事業所

2023.06.01作成

	目標項目		活動目標	活動項目	責任者	スケジュール											
						6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
Ⅰ	二酸化炭素排出量	(77期実績) 1%削減	1 購入電力削減	1 エアコンの室温温度管理(ラベル再点検、配付)	E A 2 1 事務局	■						■					
				2 エアコンフィルターの定期清掃	該当職場長	■			■			■				■	
				3 エアコン室外機の洗浄・簡易点検(改正フロン法対象機)	E A 2 1 事務局		■										
				4 デマンドコントロールによる電力管理	総務部	■	■	■	■			■	■	■	■		
				5 デマンドコントロール警報対応	該当職場長	■	■	■	■			■	■	■	■		
				6 照明器具の管理、点検、節電	該当職場長	■			■			■			■		
				7 フォームUV印刷の効率的な計画	該当職場長		■	■	■			■	■				
			2 ガソリン使用量削減	1 テレマティクスによる管理 急発進・急ブレーキ	総務部	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
				2 急発進・急ブレーキ発生防止、安全指導	安全運転管理者	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
				3 テレマティクスによる管理 長時間アイドリング	総務部	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
				4 長時間アイドリング発生防止、指導	安全運転管理者	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
			3 軽油使用量削減	1 リフトの保守、点検	該当職場長	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
Ⅱ	廃棄物排出量	(77期実績) 1%削減	1 廃棄物(紙くず)の削減	1 歩留まり改善	該当職場長	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
				2 良品率改善	該当職場長	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
				3 廃棄物置場の管理	該当職場長	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
			2 リサイクルの徹底	1 紙の分別 雑古紙、雑誌、模造紙、段ボール	該当職場長	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
				2 業者との契約見直しまたは更新 契約書(外部文書)管理	担当部門長	■											
Ⅲ	使用水道	1%削減(77期)	1 工場使用量の削減	1 節水ラベル再点検、配付、節水喚起	該当職場長	■						■					
				2 事務所使用量の削減	該当職場長	■						■					
				3 漏水、施設不全の点検	該当職場長	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
				1 水道使用量のチェック(検針)	該当職場長	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
Ⅳ	化学物質使用量	使用量削減(77期)	1 化学物質の管理	1 P R T R法該当化学物質 把握、削減、取扱、保管	該当職場長	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
				2 有機溶剤含有 把握、削減、取扱、保管	該当職場長	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
				3 S D S、I C Pデータの完全収集、文書管理	品質保証	■						■					
Ⅴ	貢社献会	着手	1 地域ボランティア活動	1 板櫃川、到津の森公園周辺の清掃 3ヶ月ごと	安全衛生委員会	■			■			■			■		
				2 会社周りの側溝清掃 毎月輪番制	安全衛生委員会	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
Ⅵ	開発・設計	推進	1 「3R」製品の開発・販売	1 3 Rを意図した製品	営業・企画デザイン室	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
			2 紙の素材の再認識活動	1 紙以外の素材を紙に置き換える試み	営業・企画デザイン室	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
Ⅶ	その他	着手	1 掲示物の最新化	1 環境目標グラフ、環境関連資料作成、配付	E A 2 1 事務局	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
				2 掲示物の最適化 陳腐化した掲示物排除、最新版掲示	各職場長	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
			2 EA21活動への意識の強化	1 E A 2 1 委員会の開催と内容の充実化	E A 2 1 委員会		■			■			■			■	
			3 環境リスクの洗いだし	1 安全パトロール	安全衛生委員会	■						■					
				2 安全パトロール指摘箇所改善	各職場長	■						■					

□:計画 ■:実施

関係法令

環境関連法規に関する違反・訴訟・苦情等の有無 および行政への届出義務の履行

1 環境関連法規の違反、訴訟、苦情等の有無と対処について

※自社の環境関連法規として、特に周辺地域との関りが深いと考えられる、

①廃棄物の処理及び清掃に関する法律、②フロン排出抑制法(改正フロン法)、
③消防法 等々6つの環境関連法規についてその遵守状況を自己チェックした結果
違反は見当たらなかった。また、外部からの訴訟や苦情等は受けなかった。

(
環
境
関
連
法
規
)

- ・廃棄物の処理及び清掃に関する法律
- ・フロン排出抑制法(改正フロン法)
- ・消防法
- ・特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法律(化管法)
- ・改正省エネ法
- ・労働安全衛生法

2 環境関連法規に関わる行政への届出義務(または協力)の履行について (・該当案件に対し、北九州市ホームページ 専用入力シートにて提出協力)

■「78期分の産業廃棄物管理表交付等状況報告書」の提出

北九州市環境局産業廃棄物対策室 2024年6月30日web提出

3 環境関連法規の遵守状況について

適用される主な環境関連法規等の一覧及びそれらの遵守状況を確認した結果、
環境関連法規への違反はありません。なお、関係当局より違反等の指摘ありません。

代表者による全体の評価及び見直し・指示

* 78期活動結果と評価、79期への展望、見直し・指示

2024.08.30

評価	提出資料点検結果	(1) 2023年度(第78期)環境経営目標の達成状況及び環境負荷自己チェック
		(3) 環境関連法規等は適切に取りまとめられ、遵守されている。
		(4) 外部からの苦情は無かった
		(6) 緊急事態の訓練については、小倉工場で避難訓練を実施したものの、到津事業所では人員減により実施できなかった。
		(7) 是正処置として廃液倉庫掲示板が固定された。
		(8) 人員減により内部監査が書類のみ
	環境経営システムが有効に機能しているか	(1) 環境経営目標を達成するための活動が有効に機能しているが、人員減により今後活動に支障をきたさないよう対応策の検討が必要である。
変更の 必要性と指示	活動の評価	(1) 二酸化炭素排出量の削減は目標を達成できたが、軽油使用量の増加部分の改善が必要である。
		(2) 廃棄物排出量削減は目標を達成できたが、生産量増加時に排出量を抑える対応策を検討して
		(3) 上水使用量が増加して目標未達だったため、洗浄方法の見直し等を検討する。
		(4) 化学物質は、削減目標を達成できた。
		(5) 環境負荷低減製品の目標件数を達成できた。
	実施体制	(1) 組織・実施体制の見直しなし。
	環境経営方針	(1) 変更なし。
	(79期) 環境経営目標 ・活動計画	(1) 二酸化炭素排出量、上水使用量、廃棄物排出量ともに、78期実績の1%削減を目標とする。
		(2) 化学物質適用範囲拡大に対処し、使用量の把握とその削減・代替に努める。
		(3) 非常事態時の訓練では、地震や津波(高潮)等の自然災害を想定した避難訓練を導入する。
		(4) 環境に配慮した製品の開発や提案目標は、表面加工においてLCコートホログラムへ代替の実績を上げる。(目標2件)
	環境マニュアル・規定等	(1) 特に問題なし。